

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

3
2017



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

Full Gospel Tokyo Church



CONTENTS

- 2 再び立ち上がったマルティン・ルター／イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム……………チョウ・ヨンギ牧師
遠くを見つめよう
- 7 メッセージ ………………志垣重政牧師
肉なる人と靈なる人
- 16 信仰の明文化を成し遂げますように⑪……………
信仰の根を保ち受け継いでいこう／イ・ヨンフン牧師
- 21 出会いの祝福……………カン・サン牧師
「あなただから…」
- 24 主と歩く……………ヘンリー・グルーバー牧師
あわれみは、さばきにうち勝つ
- 29 2017 これを望みます ………………
 - ・主イエスの生き方にならう者としてください
 - ・受けた愛、感謝でお返ししたいです
 - ・愛を分かち合う人になりたいです
- 33 牧会の香り……………イ・テグン牧師
神様は祈るしもべを放り出さない
- 37 これが知りたい……………シン・ソンジョン牧師
ラケルがレアに買い取った「恋なすび」とは何だろうか？
- 39 マラナ・タ……………ソン・ヒョンギョン牧師
忘れてしまった昔の地境
- 43 統一時代を開く……………ベン・トレイ牧師
静まって、わたしこそ神であることを知れ

この「しなんげ」は、おもに韓国版信仰界1月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

再び立ち上がった マルティン・ルター

新年が明けました。今年は本当に私たちは、変化を渴望しています。2017年は、マルティン・ルターの宗教改革500周年になる意味深い年です。本当に国民も、共同体のメンバーも変化しなければ、グローバル時代に生き残ることはできません。改革と変化の動力は、覚醒と信仰です。だから改革者は、御言葉と信仰を主張しました。

ルターの改革には、ひどい迫害と苦難がありました。常に生命の脅威を感じた彼は、挫折し絶望しました。改革が揺さぶられていた時でした。挫折と絶望の中、ルターはある日、やつれた恰好で家に帰ったとき、ビックリしてしまいました。妻が喪服を着ていたからです。妻は彼に向かって言いました。

「主が死なれました。」

衝撃を受けた彼に、妻は一言加えました。

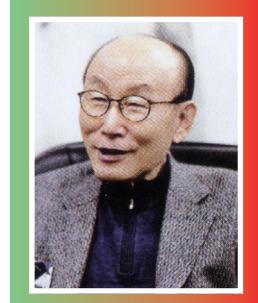
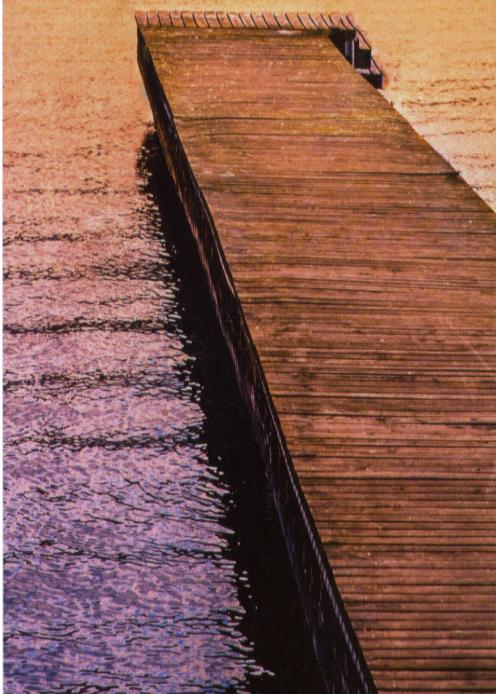
「そうじやないと、こんなにあなたが挫折することがありますか？ 主が生きておられるなら、あなたがこんなに挫折し、絶望するわけがないでしょう。」

改革者は、ここで大事なことを悟ります。再び勇気と信仰を得た彼は、改革に精進します。彼が改革の動機を得た御言葉も「信仰による義人は生きる」（ローマ1:17）でした。

多分、喪服を着たルターの妻は、信仰を失った時代、変化の意志を奪われた時代に、私たちに叫んでいるのかもしれません。再び生きておられる神を信じて立ち上りなさいと。主の恵みは永遠です。断絶されません。日々起ります。「日々にわれらの荷を負われる主はほむべきかな。神はわれらの救である。」（詩編68:19）†



遠くを見つめよう



チョウ・ヨンギ 牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げています。

人は関心を持って、集中的に見つめる時、驚くほどの創造力を発揮します。ところが、今日の多くの人々はこの『見つめる法則』の威力を悟らないまま、わきまえずに貪欲に従って見つめていたために、人生に失敗します。その代表として、聖書に示された人物はハワです。創世記3章6節に、ハワが善惡を知る木の実を取って食べた動機をこのように記しています。

「女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。」

ハワはただ一回見ただけで、善惡を知る木の実を取って食べたのではありません。ハワは悪魔の誘惑を受けた後、絶え間なく善惡を知る木を見つめました。その結果、どうしようもなく自分が見つめた対象に引っ張られ、それを取って食べて悪魔の罠にかかり、墮落の道に入りました。

しかし、聖書にはこの『見つめる法則』をよく用いて祝福を受けた人々も少なくありません。その代表的な人物がアブラハムです。アブラハムはカナンの地を相続する際、神様は彼にカナンの地を集中的に見つめるようにされました。そして、このような『見つめ法則』を通して、カナンの地はアブラハムに引っ張られ、アブラハムはカナンの地に引っ張られていく奇跡が起



こりました。また神様は、アブラハムがその年齢99歳になって、子どもを授けるという奇跡を約束された時も、この『見つめる法則』を用いられました（創15:5）。それ以来、アブラハムにとっては、目に見える地はすべて乳と蜜が流れる地に見え、目に見える天の星と海辺の砂の粒はみな子孫に見えたのです。

今日、何も見つめない人は何も得ることができません。このような人は何の創造的な能力も期待することができません。ヘルブル人への手紙11章1節には、「信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」と、明確に記されています。なのに、望んでいる事がらがなければどうやって信仰が生じ、どうやって見ていない事実を確認することができるでしょうか。

ですから、皆さんは新年に望んでいる目標を明確に、具体的に立てて下さい。立てる時は、正しい目標を立てて集中的に見つめて下さい。その目標が成し遂げられた姿を、総天然色で鮮やかに心の中に描いておき、24時間寝ても起きても見つめて下さい。そして、その目標のために祈り、努力しつつ走って行って下さい。既に成就したように感謝して下さい。その時、皆さんの生涯の中に驚くほどの創造の御業が起きるでしょう。†



メッセージ

純福音東京教会 志垣重政 牧師

肉なる人と靈なる人

ローマ人への手紙 8章 5～9節



人が人を評価するとき、評価する人の立場によって、その評価はまちまちになるはずです。ノーベル賞を受けた人でも、妻から見たら駄目な夫かも知れません。しかし、神様が私たちを見るときは、たった一つの基準、『肉なる人なのか、靈なる人なのか』しかありません。

肉なる人は、新しく生まれ変わらない限り、靈の人になることはできません。ならば、何故肉の人が生まれたのでしょうか。アダムとエバは神様に似せられて創造されました。神様は靈ですから、神様に似せて造られたということは、アダムもエバも靈の人ありました。靈の人であったからこそ、神の御声を聞くこともできたし、神の子どもでもありました。神の子どもだからこそ、エデンの園で何の不自由なく、神の愛と平安の中で暮らす権利が与えられていたのです。

父である神様の言葉に聞き従うという義務が一つだけありました。これはアダムの義務でもあり、特権でもありました。ところが、エバが悪魔にそそのかされ、結局アダムも悪魔の言葉に従ったのです。この瞬間に神の子どもとしての権利は剥奪され、靈の人は死んだのです。靈の人が肉の人になった瞬間でした。



「なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、靈に従う者は靈のことを思うからである。肉の思いは死であるが、靈の思いは、いのちと平安である。なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。しかし、神の御靈があながたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におけるではなく、靈におけるのである。もし、キリストの靈を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。」（ローマ8：5～9）

肉の人は悪魔の奴隸であり、悪魔の子どもでもあります。そのため、人の中には悪魔の属性が満ちあふれており、悪魔の人格そのものが人類の人格となってしまったのです。

ヨハネによる福音書8章44節には、「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ」とあります。

悪魔の存在そのものが偽りであると、聖書は語っています。その悪魔が私たちを支配しているため、心の良心に反して、結局は悪魔の子どもとして、悪魔の言葉に従うのです。これが肉の人の原理であることを知らなければなりません。見た目では全く変わりないように見えても、イエス様を信じない者には惡の靈の支配があり、信じる者には聖なる靈の支配があるのです。

肉の人は結局、惡靈の意図とする情欲の人とならざるを得ません。悪魔の計画は、私たちが何処から来て、何のために生き、何処に行くのかを悟らせず、混乱させることです。この悪魔は、

私たちに対して、盗み殺し滅ぼす以外の目的は持っていません。そこには一切のあわれみもないのです。

悪魔は私たちを情欲や快樂の世界へと導いていきます。永遠なるものには一切興味を抱かせず、やがて朽ちて無くなってしまう、富や権力、地位、賞賛にだけ興味を抱かせるようにします。悪しきものに支配された人の振る舞いがどのようなものであるのかが、聖書には書かれています。

「肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴樂、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言っておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。」（ガラテヤ5:19～21）

肉の人は、堕落した実しか得ることができません。何故なら、肉の人は堕落の中に根を張っているため、実るものは堕落でしかないのでです。これが肉の人の行為になりますが、その行為の中でも神様が最も忌み嫌われるものが4つあります。

コリント人への第一の手紙10章7節～10節——「だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、『民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた』と書いてある。また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。」

『偶像礼拝』『不品行と姦淫』『神様を試みること』『つぶやきと否定的な言葉』、この四つは神様が最も忌み嫌われる行為です。

偶像礼拝をしてはならないとあり、私たちクリスチヤンは目に見える偶像礼拝はしません。ですが、目に見えない偶像礼拝の危険があります。「あなたがたは、よく知っておかねばならない。すべて不品行な者、汚れたことをする者、貪欲な者、すなわち、偶像を礼拝する者は、キリストと神との国をつぐことができない。」(エペソ 5:5) ——不品行を行なう者と貪欲な者は、偶像礼拝を行なう者と書いてあります。貪欲はまさしく偶像であると書いてあります。お金が神様よりも大事になってしまったら、お金が偶像になり、その人は肉の人に戻ってしまうことを、神様は私たちに教えておられます。権力が自分にとって最高のものであるとしたら、その人は権力という偶像を拝んでいるのです。

神様は、偶像礼拝を行なってはならないと教えています。偶像礼拝を大胆に断ち切ることが、神の国と神の義を追い求めることになります。そうすれば、必要なものはすべて添えものとして与えられます。とはいっても、すべてのものが与えられるからと、神の国と神の義を追い求めるのではありません。靈の人とされたことがとても嬉しくて、神様に心から感謝し、神の国と神の義を追い求めた結果として、必要なものがすべて与えられるのです。

次に、姦淫をしてはならないとあります。カナンの地に入る前にイスラエルの民が陥ったモアブ人の偶像礼拝は、まさしく淫乱の限りを尽くす偶像礼拝でした。ここに日本に関する衝撃的なアンケート調査があります。不倫に関するあるアンケート

調査では、男性は 26.9%、女性は 16.3% の不倫率でした。家庭を持つ女性だけではなく、独身の女性が既婚男性と不倫をすればそれも不倫です。もっと恐るべき数字は、働く女性の 58% には不倫経験があることでした。

「不品行を避けなさい。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである」(I コリント 6:18) ——多くの罪は私たちの体の外にあるのに、不品行だけは体の中になります。肉体的な不品行だけでなく、靈的な不品行も戒めなければなりません。占いを好むこと、靈的な力を求めてパワースポットに出かけることは、靈的不品行であり、聖靈様が宿られる主の宮を汚すものであると、聖書は語っています。

「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:24) ——結婚は単なる紙一枚の契約ではなく、男と女とが一体となることです。悪しき者と交われば、惡と一体となり、せっかく靈の人として復活したとしても、また肉の人になってしまいます。何故なら、聖靈様の住む場所がなくなってしまうからです。

そして、三つ目に主を試してはならないとあります。

「民は神とモーセとにむかい、つぶやいて言った、『あなたがたはなぜわたしたちをエジプトから導き上って、荒野で死なせようとするのですか。ここには食物もなく、水もありません。わたしたちはこの粗悪な食物はいやになりました』。そこで主は、火のへびを民のうちに送られた。へびは民をかんだので、イスラエルの民のうち、多くのものが死んだ。」(民数記 21:5 ~ 6) ——神様がマナを毎日くださっているのに、岩から清水が湧き

出る奇跡を起してくださったのに、もうこの食べ物が嫌になったというのは、まさに神様を試すことです。その結果として、神様は火のへびを放ってイスラエルの民を滅ぼしました。私たちは神を試してはなりません。

かなり前ですが、韓国の三人の少女が、イエス様がガリラヤ湖の水の上を歩かれた聖書の箇所を読んで喜び勇み、何を思ったのか、夜の内に湖に行きました。そしてボートで湖の真ん中に行って三人とも水の上を歩き始めました。歩けるはずがなく、この三人は水に溺れて死んでしまいました。神様を試して何か奇跡を得ることは絶対にありません。

そして、最後に絶対にしてはならないのは、神様に不平不満や恨みつらみをつぶやくことです。肉の人はすべてを恨みの目で見るため、唇を開けば、恨みしか出てきません。不満の目で神様を見上げたら、神様に対する恨みが出てきてしまうのです。しかし、靈の人は感謝でいっぱいですから、感謝の目で物事を見るすることができます。そのため、どのようなことが起きたとしても、神様に感謝を捧げることができます。

偶像礼拝、姦淫、神様を試みること、そして神様に恨みをつぶやくこと。これを避けることが悪魔に打ち勝ち、そして靈なる人として生きる道であります。神の御言葉に耳を傾け、そして、水と聖靈によってそれを受け入れるのであれば、肉の人は死に、新しく神の人、靈の人として生まれ変わることができます。

「イエスは答えて言われた、『よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』。ニコデモは言った、「人は年をとつてから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいって生れることができ

ましょうか」。イエスは答えられた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と靈とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、靈から生れる者は靈である。」(ヨハネ 3:3～6)

水は神の御言葉を表します。そして水にはもう一つ、悔い改めという意味があります。イエス様と共に死んで、イエス様と共に復活して、そしてイエス様と共に生きるのが靈の人の生き方です。これが新しく生まれ変わることであり、まさしく十字架の救いの意味であります。

神様は御言葉そのものです。聖靈様を認め、歓迎し、もてなし、聖靈様にすべてを委ねるという告白は、御言葉を認め、歓迎し、もてなし、御言葉にすべてを委ねるという信仰告白に他なりません。これが靈の人の生きる道であり、私たちが新しく、靈の人として生まれ変わった証拠になります。新しく生まれ変わったため、父なる神様を『アバ父よ』と呼ぶことができるのです。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(Ⅱコリント 5:17)

イエス様を信じるとは、宗教や儀式、生活規範や倫理道德哲学を受け入れることではありません。イエス様の言葉は、命であり、光であり、イエス様そのものです。イエス様を信じるには、イエス様と共に死に、イエス様と共に復活したという深い意味があるのです。

「しかし、神の御靈があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におけるのではなく、靈におけるのである。もし、キリストの靈を持たない人がいるなら、その人はキリストのもので

はない。」（ローマ8:9）——イエス様を受け入れると、靈の人になります、悪魔の奴隸から新しく神の子どもになります。そして、父なる神様を『父よ』と呼べるのであれば、まさしく聖靈様が自分の中に宿っておられるのです。そして、聖靈様によらなければ、絶対にイエス様を『主よ』と告白することはできません。

二千年前にパレスチナ地方のごく小さな地域で、十字架で亡くなった人が自分の人生と関係があるというのは、聖靈様によらなければ、決して認めることはできません。しかし、すでに聖靈様が中にいる人は、イエス様を『主よ』と呼ぶことができるようになりました。

「神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである」（ローマ1:17）——聖靈様と共にいる人は、この希望の中で生きることができます。聖靈様そのものが、御言葉そのものが私たちの希望であるため、永遠から永遠まで生きることができます。そして聖靈様と共に働くことによって、私たちは豊かな実を得ることができます。ようになりました。

ガラテヤ人への手紙5章16節には、「わたしは命じる、御靈によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない」とあり、更にガラテヤ人への手紙5章22～24節には、「しかし、御靈の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔軟、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」とあります。

私たちは聖靈様と共にいることによって、聖靈様の九つの賜物を得ることができます。知恵も知識も、預言も異言も、また



大いなるわざもいやしの賜物も靈を見分ける力もそれらすべてが靈なる人には授けられている、と聖書は語っています。なおかつ私たちには、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔軟、自制という人生の中で最も喜ばしき実が、暮らしの中でも、また永遠なる天国でも、豊かに結ばれると書いてあります。これが靈の人であり、肉の人との違いであることを知らなければなりません。

肉の人を毎日のように脱ぎ捨て、聖靈様を認め、歓迎し、もてなし、すべてを聖靈様に委ねることによって、靈の人として生き、靈の人として勝利することができます。

ヨハネによる福音書1章12節の御言葉——「しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」——を言い換えると、悪魔の奴隸となっていた者たちをもう一度神の子どもとするために、肉の人を靈の人に取り戻すために、イエス・キリストを信じる者がひとりも滅びず、この祝福に預からせるためともいえます。

皆さんはすでにキリストと共に死に、キリストと共に生きる者となりました。どうぞ靈の人として永遠から永遠まで、またこの地においても、たましいが恵まれ、すべてに恵まれ、健やかな素晴らしい信仰生活を送ることができるよう、主の御名によって祝福いたします。†



2017年、新しい年が明けた。新たな出発はいつも胸を躍らせる。人生という名前の広い競技場でいつも私に出発の知らせを鳴らしてくださる方は、チョウ・ヨンギ牧師だ。私が延世大学に入学したのは1973年だった。その年の7月、ヨイド純福音教会はソデムン純福音中央教会時代を終え、新しい聖殿が完成しヨイド時代に入った。牧会や世界宣教で忙しいチョウ牧師が高校3年生の学生に具体的な進路相談をしてくださることはあまりに特別で強い愛だった。どうしてそのような愛が可能だったのか。考えれば考えるほど、感謝しかない。その背景は後に記そうと思う。

私の祖父は、ピョンヤンのソムンバク教会の長老だった。祖父は済州島で2年半教会使役を終え、プサンにてハン・ギヨンジク牧師を助け、プサン・ヨンラク教会の献堂に参加した。そして六・二五戦争後、ソウルに上京、サンド洞に生活の拠点を置き、家から近いサンド教会に出席した。両親と私たち家族はジャンチュンドンに暮らし、チュンヒョン教会に出席した。

1964年初めソデムンに引っ越し、祖父母と住むことになった。祖父は加齢のためか足が不自由だった。家からセムンアン教会までは徒歩40分以上かかった。純福音教会は徒歩5分の距離だった。セムンアン教会のカン・シンミョン牧師は、祖父がソムンバク教会の長老として仕えていた時の教育伝道師として働いておられた方だった。2人には特別な繋がりがあった。私たち家族にとって、セムンアン教会に出席することは当たり前のことだった。しかし、早天礼拝を大事にしていた祖父は、早天礼拝を捧げるため、不自由な足でも行くことができる家から近い純福音教会を選んだ。祖父は3ヶ月間、早天礼拝に参加、大きな恵みを受け、残る余生の信仰生活を送る教会に決めた。

祖父の教会選択は、私たち家族全員に影響を与えた。家族はチュンヒョン教会を離れ、祖父と純福音教会に定着した。セムンアン教会のカン・シンミョン牧師とチュンヒョン教会のキム・チャンイン牧師には誠に申し訳ないことだった。チュンヒョン教会で私たちとともに信仰生活をしていたジョン・ホンウォン伝道師も純福音教会に移り、すべての礼拝でオルガン伴奏を任せられた。当時としてもすべての礼拝で抜けることなくオルガン伴奏で奉仕できる人は探そうにも難しいことだった。それ以外でもチュンヒョン教会の何人かの聖徒はチョウ・ヨンギ牧師の説教に恵まれ、私たちと一緒に純福音教会に定着した。

教会を移ることになったある日、キム・チャンイン牧師は両親に「おじいさんの足が不自由になって、近い教会に移るというの理解しますが、なぜよりによって純福音教会なのですか？」と聞いたそうだ。当時、純福音教会が韓国教会全般に根をおろしておらず、韓国教会になじんでいなかった。また聖靈運動に対する深い理解が足りなかつた時代だった。後に理解が深まることになる。

私は「少年牧師」として呼ばれた

1966年2月、私は聖靈体験をした。当時は本当に恐れが無かつた。会うすべての友達に福音を伝道していた。毎日学校から帰ると教会に行き、1時間以上祈った。当時、学校では私のあだ名は「牧師」だった。今も同窓生に会うと、「私たちは君が牧師になると知っていた。あの時から知っていたよ。」といわれる。

高校1年生の時、クラス委員長になり、毎日、他の友達よりも1時間先に登校した。そしてクラスメイト70名の名前を一人一人呼びながら、皆がイエス様を信じるようにと祈った。その時、同じクラスの友達の一人がセヌリ党議員のホン・ムンジョン長老だ。彼は元々信仰深い家庭で育った。今も政治家と牧会者として良い交わりをしている。当時、私の親友はソ・ギョンウォンだ。顔は映画俳優のようにハンサムな少年だった。私は親友にひっきりなしに伝道した。

「ギョンウォン、君もイエスを信じよう。私と一緒に教会に行こう。」

彼はいつもこのように答えていた。

「学校で1週間に一度、チャペルに参加するのもしんどい。それなのに日曜に教会に行くって？ 日曜には女友達に会うのに忙し

い。」

伝道は彼に入っていたかなかつた。それから35年が経った時だった。私がアメリカ・ロサンゼルスのナソン純福音教会の担任牧師として招聘された時、新聞にその記事が出た。すると、事務室に1本の電話が掛かってきた。

「イ・ヨンフン牧師とは、もしかしてデグアン高等学校を卒業したイ・ヨンフン牧師ですか？」

電話は親友のソ・ギョンウォンだった。私たちは、本当に久しぶりに食事を共にした。

「会えて嬉しいよ。私は君の高校時代で一番仲良くしていたソ・ギョンウォンだよ。君が絶対に牧師になると思っていた。」

彼はメソジスト教会の按手執事になっていた。彼は若くしてアメリカに移民しクリスチャンになった。短期宣教も7回行ったという。彼は真実な信仰者となっていた。信仰生活を送りながら、あの時私を伝道したヨンフンはどこで何をしているのだろうと、いつも考えていたそうだ。ああ、神様の恵みは本当に素晴らしい。35年前の伝道の種はこのように実を結んだのだ。これがまさに福音の驚く力だ。

何がまことの祝福か

人ほどに大切な存在はあるのだろうか。ひとつの魂を救うことが天下を得ることよりも尊いことではないだろうか。

アメリカ・アラスカは「3金の宝庫」と呼ばれる。アラスカは黒い宝石である石油と、緑の宝石である森林と、黄色い宝石である黄金を保有する宝石のような土地だ。アメリカはこの土地を帝政ロシアから720万ドルで買い入れた。アメリカは韓国の7倍にものぼる広い土地を、ソウル・ミョンドンの土地100



ピョンヤンソムンバク教会

坪に満たない価格で買った。しかし、当時アメリカ議会は、売買契約を精査させたソワード国務長官に対して非難を浴びさせた。

「なぜ使えない氷の土地を720万ドルも出して買ったのか。国庫をつぶした責任を取れ。」

今のアラスカは1千億バーレルの石油が埋められている「資源の宝庫」だ。

それだけだろうか。ニューヨークのマンハッタン島は一人のオランダ人が、あるインディアンから4ドルで購入した。それも現金ではなく、4ドル相当の洋酒一瓶だった。そのインディアンが今日ニューヨークを想像しただろうか。私たちの周囲では愚かな人生の取引をする人々がいる。魂を差し出して快樂を買う現代人もいる。

クリスチャンは信仰の文明化を成すため、祈らなければならぬ。何がまことの祝福か。信仰の根を堅固に続けていくことがまことの祝福だ。私は信仰の家庭で生まれて育ったことがどれほど感謝なのかわからない†

出会いの祝福／カン・サン 牧師 | 十字架教会、<私は本物なのか>著者



「あなただから…」

うちの家族には百ウォン玉一枚も貴重だった時代があった。結婚をして、長女が生まれ、時間は流れたが、その状況は大して変わらなかった。ある日、妻が外出していて、私は幼い娘と一緒に、夕食にインスタントラーメン一つを作って食べた。その日に限ってうちの娘はラーメンをとてもおいしそうに食べた。私はお腹が空いていたけど、娘がよく食べる様子がかわいかつたので、娘が食べ終わったら汁に冷めたご飯でも入れて食べようと思って待っていた。

ところが、麺をほとんど一人で食べた娘が、汁に入れたご飯までおいしいと言いながら食べ続けた。本当に不思議なことに、麺を食べる娘はあんなにかわいく思えたのに、残った汁に入れたご飯まで食べる姿は、あまりかわいと思えなかつた。

おかしく聞こえるかもしれないが、私はその時本当に辛かつた。父親である私も食べないといけないので、娘は全くそれを想えていなかつた。私は仕方なく娘がお腹いっぱいになるのを待つて、最後に残った汁とご飯少しを食べて皿を洗つた。ところで皿洗いをしながら、何と定義すれば良いかわからない涙がしきりに流し台に落ちた。

ご飯をお腹いっぱい食べた娘はすぐ寝付いて、私は娘が起き

ないように声も大きく出せず、口にタオルをくわえて少し離れたところで祈った。なんか悔しかったし、悲しかった。とてもお腹が空いていて辛かった。私はしばらくの間、主に自分の苦しい気持ちを吐き出していた。どれくらい経つんだろう、主は私に静かに一つを聞かれた。

「あなたはだれ？」

私はすぐには答えられなかった。何と答えれば良いのかもわからなかつた。すると、主はその質問の範囲をさらに狭めてくださつた。

「お前は今、この子にとってだれなの？」

そうだった。私はこの子にとって父親だった。私はこの子に何かをもらう人ではなく、何かを与えるなければならない人だつた。そして、それは徹底的に状況とは無関係に与えられた私の名であり、アイデンティティだった。つまり、この子が病気でも私はこの子の父で、この子が罪を犯しても私はこの子の父なのだ。富んでいて、余裕があつて、すべてに満足な時にだけこの子の父になるのではなく、貧しくて、乏しくて、さらに私が持つているすべてを、この子が持って行つても私はこの子の父である。私がだれなのかは、自分の状況とはまったく関係のないものだつた。むしろ状況が厳しくなればなるほど、私がこの子の父であることをより鮮明に表さなければならなかつたのだ。

そしてこの大切な父という名を、私の天の父がくださつたということに気づいた。他のだれかではなく、私にそれを全うする責任と能力と特権としてくださつたのだ。しばらく経つて、娘は悪夢を見たのか起きて泣いた。私は娘を抱いてあやしてあげた。すぐに泣き止まない娘と一緒にまた泣いた。そして感謝した。

「神様、ありがとうございます。私をこの大事な娘の父にしてくださつてありがとうございます。そして、様々な状況を通して父として成長させてくださつてありがとうございます。」

この一週間も治らない風邪の影響で、喉がひどく痛く薬を飲んでいたので大変だつた。一週間だけ電話や相談を自制してほしいとお願いしたが、依然としてみんなは電話をして相談をする。「先生、喉痛いですよね…」と話を切り出しながらも、結局自分が話したいことを全部話し、聞きたいことを聞こうとした。「先生、忙しいですよね…」と言いながらも、私が説教準備しなければならない時間も、ご飯を食べなければならない時間も奪つた。しかし、感謝している。なぜなら、私が牧師だから。そして、そうやってさらに牧師になっていくから。

もしかして、今あなたの人生がとても疲れて、大変で、苦しむのか？

『私がどうして？ どうして私にこんなことが？』と心の中に憤りと恨みが生まれるなら、静かに自分に聞いてみよう。「私はだれか？」と。

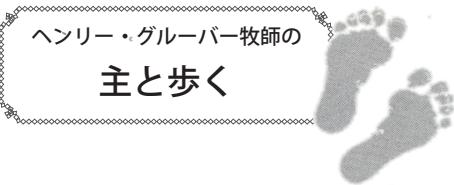
おそらく神はこう言われるだろう。

「どうしてかと？ それはお前だから！」と。

「エリ・エリ・レマ・サバクタニ」

悽絶な十字架の苦しみの中で、イエスが「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか」と訊かれた時、神は沈黙しておられたが、確かにイエス様はその答えが分かつたのだろう。

「どうしてかと？ それはお前だから！」†



亨リー・グルーバー
(Henry Gruver) 牧師

「世を歩くとりなし祈祷者」で知られた筆者は18歳の時からアメリカのアリゾナ州フェニックスの犯罪多発地域で主と共に歩き始め、今も主と共に歩いている。彼は全世界のどんな場所でも、出会った人たちのために祈り、福音を伝えている。彼の人生には超自然的な不思議が多くあったが、より大事なことは、彼が主の御言葉に従順しながら歩き、祈っているという事実だ。

あわれみは、さばきにうち勝つ

「義を追い求め、主を尋ね求める者よ、わたしに聞け。あなたがたの切り出された岩と、あなたがたの掘り出された穴を思いみよ。」（イザヤ 51:1）

「あわれみは、さばきにうち勝つ」（ヤコブ 2:13 後半）

良き父なる神は、ご自分の民が使命を全うできるように、悪しき者や悪質のシステムは裁き、苦痛にあっていいるご自分の民たちにあわれみを施される。

2016年、アメリカの大選挙結果は多くの人々を驚かせた。けれども、主を恐れかしこむ者にとっては本当に感謝すべき結末となった。ひざまずき祈りをもってとりなす人々は11月8日、恐れときめきの中で、主がアメリカに起こされる政治的奇跡を待ち望んだ。言論の黒色宣伝に打ち勝ち、福音主義者84%が支持したトランプ氏候補が当選した。

トランプ氏は、ニューヨークのスカイラインを変えた不動産開発者だ。特に彼は、長い間放置された古い公共機関の建物や富豪の家の中で、古くても基礎がしっかりした、当時の最高職人が高級大理石や木を精妙に細工した門と壁、窓などのある建築物を低価額で購入し、本来よりもより美しく素晴らしい建物に復旧させ、その価値を高めることをして来た。

大きな建物を開発する人は、計画を立てて建物を購入し、それを復元させるに至るまで、数年先を見通して働くかなければならないという。トランプ氏は良い基盤を見つけ、それを回復させる過程で、数年先の未来を見抜く眼目を訓練して来た。トランプ氏はそのような眼目の持ち主のゆえに、アメリカの堅い基盤がキリスト教であることに気付き、アメリカを回復させる方法を探していた。

王朝たちに長い間支配されていた、宗教的なキリスト教国家ヨーロッパを離れ、自由に神を礼拝できることを願った清教徒たちが、ユダヤ——キリスト教思想が基盤となって建てられたアメリカは、幾度の危機を極服し、第二次世界大戦において勝戦国となることによって、全世界の舞台に登場するようになった。そして、福音と聖書に基づいてつくられたアメリカ的思考や文化を全世界に伝播してきた。

アメリカは、政府や王朝が国民を治めるヨーロッパの国々とは異なり、国民の、国民による、国民のための国家として、国民一人ひとりが多くの決定権と自由を持ち、政府は最小限の力を持つように、建国の父たちは法律を作った。アメリカは、国家が生産手段を所有する共産主義、あるいは高い税金を通して富を配分する社会主義ではなく、個人が自分の努力の産物を所

有することができる、資本主義経済体制を持っている。

「神が与えられた個人の使命に最善の努力を競い合う時、夢は叶えられる」という肯定的な企業家精神は20世紀全世界の人々に、特にクリスチヤンたちに想像的かつ能動的な信仰を与え、歴史上由来のない富を産み出させた。

国家とキリスト教の危機

しかし2001年9・11テロを起点として、アメリカは混沌と暗闇の中に入り、全世界への影響力が減少した。この8年の間、ムスリム偏向の進歩的、かつ社会主義的思想を持つ大統領の指導下で、反キリスト教的法律が次々に制定され、キリスト教国家であるアメリカについて来た全世界の教会は混乱に陥り、衝撃を受けた。

20世紀に入り、ロシアや中国のような国家は急激に、かつ暴力的なやり方で共産主義を掌握した。ヨーロッパのように富裕な国々は、世俗的社会主义が百年ほどの間で、キリスト教基盤を蚕食していき、キリスト教国家であるアメリカにまで浸透し、大学とメディアを支配してしまった。国家とキリスト教の危機の前に、アメリカ教会はアメリカの正体性、アメリカの召命に関して深く悩むことになった。そして、その過程で建国の父祖たちや、建国初期のクリスチヤンたちが主と交わした約束、信仰の先祖たちが主から賜ったアメリカの召命を思い起し、回復のために祈り始めた。

国家とキリスト教の危機の中で2016年、混沌の中にいたアメリカのクリスチヤンたちは、平和の時は選ぶはずのないことを

果敢に試みた。宗教的律法主義にふさわしい、良き敬虔な政治家ではなく、無鉄砲すぎるほどの成功力を持つ企業家を指導者として選んだのだ。

今年70歳であるトランプ氏は、第2次世界大戦の危機を祈りによって克服し偉大な強大国家に成長した、福音主義国家アメリカの栄光を経験した世代である。

彼は三度の結婚歴と毒舌で、選挙運動初期にはクリスチヤンたちの関心が寄せられなかった。しかし選挙運動の過程で、クリスチヤンたちは、アメリカの堅き基盤はキリスト教であり、教会が社会に影響力を与えてこそ、アメリカは偉大な姿に回復できる、という信仰の持ち主であることを確認し、彼を支持し始めた。

国々の使命が回復しつつある

裁きのように見えた状況のなかで、神の御救いが臨んだ。これからもっと多くの靈的戦争があり、苦しみがあるはずだが、主はアメリカが召命を回復するよう、恵みを与えておられる。真実なクリスチヤンがアメリカの副大統領になり。アメリカの内閣は歴代のどんな時よりも保守的かつ親キリスト教的だ。

全世界から2016年、アメリカ大統領選挙で主を恐れかしこむ指導者が当選されるよう、とりなしてくれた。イスラエルではラピたちもトランプ氏当選のために祈った。主はアメリカを通して友好国にも大きな祝福を与えて下さるはずだと、私は信じている。

神が各国に与えられた召命が回復しつつある。国家と個人が



國家の危機を前にして今すぐ難題を解決するためではなく、召命の回復のために祈るなら、混沌が取り去り、問題は解決されるであろう。
さらに、アメリカと韓国のような国々が、主の御前に福音の種を蒔いて来た労苦を主は覚えて下さり、時が来れば大きな収穫を得るようにして下さるであろう。

創造の召命を回復するように導かれる御手が、この地に臨んでいる。全世界に福音を伝え、自由な政治、経済体制を伝え、共に富みリバイバルするようにサポートする、アメリカの使命が回復しつつある。

2016年ヨーロッパ、北米大陸、アジアでいろんな国の政治地形が震度10の強い地震を経験している。地震後の結果物を覗いてみると、主が国家の使命を回復させておられることが分かる。

國家の危機を前にして今すぐ難題を解決するためではなく、召命の回復のために祈るなら、混沌が取り去り、問題は解決されるであろう。さらに、アメリカと韓国のような国々が、主の御前に福音の種を蒔いて来た労苦を主は覚えて下さり、時が来れば大きな収穫を得るようにして下さるであろう。†



2017 これを望みます



主イエスの生き方に ならう者としてください

チョン・ジョンホ／釜山家庭裁判所の部長判事

人間を創造し、民族の生死禍福を統治しておられる父なる神様、今まで、国と民族を守ってくださり感謝いたします。

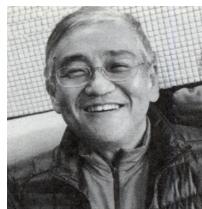
主の御手に導かれてここまで来たのに、私たちはかえって主に背き、仕えるべき主の御座に人間の権力や虚しい財物、霧のように消え去る名誉に仕えてきたことをお赦しください。また、教会が教会とならず、世間のことを心配し、彼らのために祈るべき教会が、かえって彼らから心配される存在となりました。お赦しください。

愛と正義の神様、2017年、新年には主の民たちが、あなたがくださった戒めを完全に守ることができますように助けてください

さい。人間の高いところに向けては、預言者の役割を担わせ、この地に正義が堅く立つようにしてください。また低いところにむけては、御言葉が肉となり、低くなられたイエス・キリストの生き方にならって、愛が波打つようにしてください。主の教会においては、あなたの民たちが正義と愛であるキリストの律法に従うように導いてください。

まどろむこともなく、眠ることもない神様、愛するあなたの民たちもまどろむことなく、いつも目を覚まし、崩壊していくこの社会のたいまつとならしめてください。敵を愛しなさいという高貴な命令を受けた者として、品格を失わないようにしてください。世の中に埋没せず、世間からかけ離れもせず、青空を悠々と飛ぶわしのような人生を送るようにしてください。

主よ、キリストの季節が近づいた時、「なまけて悪いしもべよ、わたしはあなたを知らない」と捨てられないことを望むしもべが、あなたの御名によってお祈りいたします。アーメン。†



受けた愛、 感謝でお返ししたいです

パク・ジョンホ／賛美奉仕者

神様がくださった私の肝臓を、自分で良く管理できず、肝硬変、がんによって、生きる道がなくなりました。このすべての過ちは、私が犯したものでした。管理ミスでした。私の肝臓は切り取ってしまい、もうありません。その日、私は死んだのです。

そして今、移植手術により、末娘の肝臓で生きるようになった私は、胸がいたい父親であるだけです。振り返ってみると、

五十代半ばに告白できることは、私はいつもミスを犯していただけで…、神様が事態の收拾をしてくださったようです。申し訳ない思いが残るだけです。

16時間の手術を通して亡くなった私に、神様は『一方的な恩恵』で、今というこの時間、この呼吸を許されました。私のために涙を流した先輩牧師の祈りが思い出されます。「この人が一日を生き伸びても、ささげられるのは罪しかないのですが…神様、それでもジョンホ兄弟を助けてください」——コーヒーショップでの絶叫……。

子どものために親が代わりに死ぬことはあっても……。足りない父を生かすために、自分の肝臓を70%近く切って死を耐えてくれた、私の愛する末娘ジユンを神様の御手に差し上げます。

今はお祈りします。そして誓います。「神様、私が立っていなければならない所、宣べ伝えなければならない所で、神様の御名だけを高くしてください。神様の愛だけに感謝するようにしてください。どこへでも私が行かなければならない所へ、私を遣わしてください。†



愛を 分かち合う人になりたい

ジョン・ヘナ／カンサン中学校2年生

私のお父さんは、神様の福音を賛美で伝えるジョン・ヨンデ福音聖歌牧師です。私のお父さんは片足が不自由です。松葉杖を頼りとする障害を持って生活をしています。私のお父さんは、そのような自分の障害をものともせずに、神様の福音を宣べ伝

えるためならば自分の全力を神様に捧げ、自分を緩めない生き方をしています。我が家は決して裕福な家庭ではないのに、隣人のために真っ先に自分を捧げ、困っている人を助け、懸命に頑張るお父さんの行動に頭が上がらず、私は心からそんなお父さんを尊敬しています。

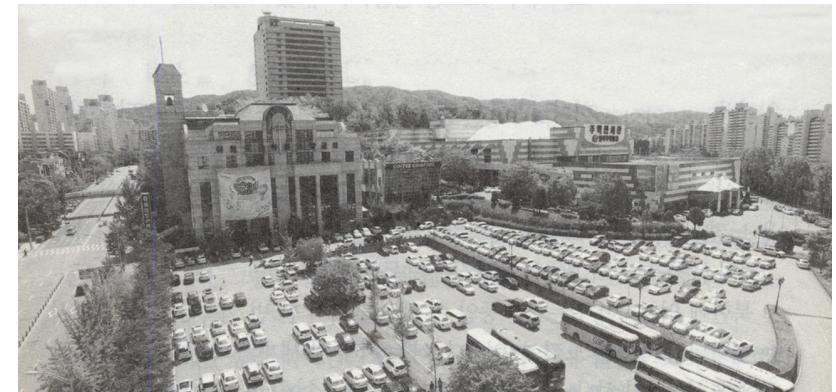
たとえ人が何と言おうと、私にとっては世界で一人だけの大切な最高のお父さんです。私が小学生の頃には、足の不自由な父を持つ障害者の娘ということで、友達からいじめを受けたこともたくさんありました。その度に私は医者になりたいという夢を持つようになりました。医者になってお父さんの足を治してあげたい。同じような障害を持っている人の役に立ちたいと思いました。今の私には、お父さんの足をすぐに治してあげる力はありませんが、私はお父さんがいつも元気で神様のために活躍することを心から願っています。

時折、私も正常な体で元気なお父さんを持つ友達や、お金持ちのお父さんを持つ友達を羨ましく思ったこともあります。私のお父さんは障害者ですが、いつも苦しんでいる人や、傷ついた人のために神様とともに賛美を歌い一生懸命キリストの福音を宣べ伝えています。そんなお父さんがやっぱり私にとっては世界で一人だけの大切な、大好きなお父さんです。父さんがいつまでも元気で神様の栄光のため働くように母さん、兄弟と祈りで応援しています。

経済的に厳しい状況を乗り越えてお父さんの望む伝道の働きが実ることを心から願っています。神様が私にどんな望みを託しているのかはわかりませんが父さん、母さんがいつも元気で喜びと感謝を捧げる生活と、たくさんの友たちと神様の愛を分かち合っていくことを望みながら祈ります。†

牧会の香り | イ・テグン 牧師 ヨイド純福音ブンダン教会担任牧師

神様は祈るしもべを放り出さない



「神の手」と呼ばれるジョン・ホプキンス大学のベン・カーソン (Ben Carson, 1951 ~) 博士は、アメリカ・デトロイト貧困層のトラブルメーカーの少年でした。毎日喧嘩をし、学校の成績は最下位で将来への希望というものはまったく見えない、そんな子どもでした。それでも、彼の母親の肯定的な言葉がベンの人生を変えたのです。母親は、彼が喧嘩して帰って来ても、最下位の成績表を持って帰って来ても、「ベン、何事も気持ち次第で出来るものよ。あなたは努力さえすれば何でも出来る!」という肯定的な言葉をかけてあげました。彼はその言葉に力を得て気持ちを持ち直し、すばらしい外科医となったのです。どんな状況に置かれても肯定的な言葉と考えを持てば奇跡は起きます。

私は、1975年神学校を卒業して、ソウル市恩平区ブルグアンドンに西部純福音教会を開拓し、4年間担任教師として全身全靈をかけて福音を伝えました。そんな中である問題が発生しました。開拓の際、賃貸で教会を借りていたのですが、オーナーは契約を保証金契約に変えると知らせてきました。開拓して間もないで、保証金を払う財力はありませんでした。その時、私にできることは祈ることだけでした。

神様は祈るしもべを放り出すようなことはしません。祈りの中で、神様はアイディアをくださり、様々な助けを受けるようにしてください、教会の建物を購入できるようにしてくださいました。周りから借りたお金を全部投資し建物を買いました。更に驚くことに、教会の周辺に地下鉄の駅が作られ、教会の建物の値打が三倍にあがり、しまいには何年も経たないうちに10倍にまで上がりました。こうして、すべての経済的な苦労は乗り越えることができました。もし私があの時、不満を漏らし、否定的な考えに陥っていたら、良い結果をみることができなかつたはずです。聖靈により祈る心をくださり、肯定的な心で祈るときに奇跡が起きたのです。

祈るとき道が開く

聖靈の働きは、私がアメリカのシカゴ教会で牧会する時にも起きました。私は1985年に、シカゴで6家族と共に教会を開拓しました。教会の建物もなく、聖徒も多くありませんでした。そこで私ができることは、祈ることだけでした。置かれた環境を恨み不満をこぼすのではなく、聖徒たちと共に涙の祈りを捧げました。祈り続けたある日、ある電機会社の建物を購入して教会の建物に使用しようという気持ちになりました。それで、

足りない財政のために更に懸命に祈り、全聖徒たちの努力で当時の相場より安い価格で建物を購入することができたのです。

そしてしばらくすると、目の前にある銀行が大きな額を提示し教会を売ることを提案してきました。その時、銀行のその提案金額があれば、教会の苦しい財政に対し、大きな助けになるという思いになりました。しかし、祈りに答えられ購入した神様の聖殿を、容易く売ることはできないと思い直し断ったのです。すると、銀行の提案を断った後に、教会の近辺にシカゴ英才学校が入ってくることを新聞を通じて知り、お陰で教会の周囲の土地は毎日価格が高昇しました。教会の建物も4倍、5倍に上がり、結果、その後はもう財政的な苦労はなくなりました。このすべてが神様の備えです。

そのようにシカゴで新しい聖殿を購入して、今度は皆で教会を熱心に飾りました。長椅子を新しく置き、カーペットも新しく引きました。ところが、好事魔多しというのでしょうか！空調設備工事業者の工事ミスにより、天井から雨漏りがする問題が発生したのです。更には、再工事日を目前に、何と急に夕立が降ってきました。その瞬間、とてつもなく心配になりました。おそらく椅子とカーペットが駄目になってしまふ程雨が降ったからです。不安を抱えながら急いで教会へ向かい、聖殿の物が雨に濡れないようビニールで覆うつもりでした。

しかし、急いで行っても教会へ到着したのは、夜の12時でした。聖殿がもう水浸しになっているだろうと不安な気持ちになり、聖殿に入る意欲さえなくなります。せっかく新しく購入した椅子とカーペットが、雨に濡れていることを考えると胸が痛くなり、恐る恐る聖殿の扉を開きました。ところが、椅子とカーペ

ペットは一つも雨に濡れていなかったのです。誰かがビニールで椅子をすべて覆い、カーペットも違う場所に移しておいたのです。驚きを抑えて聖殿を見回すと、聖殿の隅ですすり泣く声が聞こえてきました。音が聞こえる方へ行ってみると、二人が肩を抱き合って泣いていました。一部始終を聞くと当時、教会に通うチェ・シュミヨン執事とキム・キチャン執事が、雨が強くなるのを見て教会に駆けつけビニールで椅子を全部覆い、カーペットも違う場所に移し、雨の入る場所では水を受けとつては外に捨てるなどを繰り返していたといいます。それてしまいに疲れ果ててしまい、二人で抱き合って泣いていたとのことでした。あまりにも大変で疲れ果ててしまったけれど、神様の教会を愛する気持ちが溢れ出て、それに感激しながら泣いていました。私はその姿を一生忘れません。そんな方たちの愛と献身のお陰で、神様の教会は日々堅固に成り立ちました。そして、6人で始まったシカゴ教会は、いつの間にか一千名の聖徒が集まる教会へとリバイバルしました。

私たちは、他人を信じられず家族も、自分自身さえも信じられない時代を生きてています。しかし、神様は信仰の中に奇跡を隠しておられ、私たちがそれを取り出して見ることを待っておられます。私たちが神様を疑わないで信じる時に、私たちの人生は変化し、約束してくださった祝福を一つも漏れることなく受け取り味わうことができます。私に小さな願いがあるとするなら、それは、天国に行くその日までこの信仰が変わらず、神様の祝福を受けて生きていくことです。「しなんげ」読者の皆さんも神様の祝福を受け取り味わう主人公になりますよう、主の御名によって祈ります。†

これが知りたい | シン・ソンジョン 牧師、巡回宣教師

ラケルがレアに買い取った 「恋なすび」とは 何だろうか？



この「恋なすび」は、創世記30章18節に書かれた、ヘブル語で「ドゥーダー」という植物だ。パレスチナの南部地域が主な生産地で、古代ローマ時代に一種の麻酔剤として多く使われた植物だ。最近になって「バイアグラ」が出回っているため、多くの人が「恋なすび」に対し、より深い関心を寄せるようになった。

この「恋なすび」はイモ類に属する植物だが、高麗人参のように人が足を組んだような形をしている。葉は濃い緑色、花は紫色で、実はミニトマトより若干小さく、黄色っぽい。独特な香りと味がする。夫婦間の深い関係をつくってくれるため、一名「愛のリンゴ」とも呼ぶ。一千人の側室をもつソロモンのように、使いすぎると弱くなり、ひとりしか子どもができないため、「悪魔の実」とも呼ばれている。

ヤコブの結婚は、ラブストーリーのように劇的な歴史をもっている。ヤコブはラケルを愛していて、彼女を得るために7年間ラバーンの家で僕として仕えた。しかし、ラバーンが「姉を先に嫁がせるのが風習だ」と言い張ったため、その持参金として更に7年を僕として仕え、遂にラケルを得るようになるが、この姉妹間には妬みや嫉妬が絶えなかった。神は、ヤコブに愛され



ないレアをあわれみ、ラケルより先に子を授ける祝福を与えてくださった。

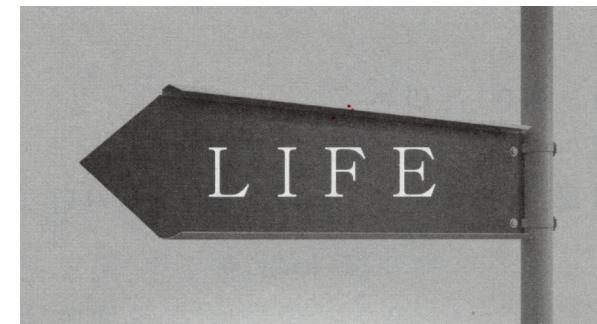
興味深いことは、聖書に出る名前は、すべてその人の歴史だと言えるほど、特別な意味をもつ。レアが最初の子を産み、ルベンと名付けたが、それは「見よ、息子だ」——「主がわたしの悩みを顧みられたから、今は夫もわたしを愛するだろう」——という意味だ。妹のラケルに見せびらかすような行為だ。また二番目の息子を産み、シメオンと名付けた。これは「ヤーウェなる神が私の祈りを聞いてくださった」——「主はわたしが嫌われるのをお聞きになって、わたしにこの子をも賜わった」——という意味だ。更に三番目の息子を産み、レビと名付けた。その意味は「連合」——「わたしは彼に三人の子を産んだから、こんどこそは夫もわたしに親しむだろう」——という意味だ。レア自身が夫との関係をラケルに見せつけるためなのかもしれない。四番目の息子は「ユダ」という名を付けた。「贊美」——「わたしは今、主をほめたたえる」——という意味だ。レアの嫉妬がどれほど大きかったか、四番目の子を産み、ようやく神を贊美するようになったのである。しかしレアは、それでも満足できなかったのか、自分の僕をヤコブに与え、更に二人の息子を産むようにした。

すると、今度はラケルが反撃に出た。自分の僕をヤコブに与え、ダン（祝福となるという意）を産み、次の息子はナフタリという名を付けた。「姉と競争し私は大いに勝った」という意味だ。ここで、ラケルは自分が子どもを産む計画を立て、夫の愛を奪うために『恋なすび』をレアから買い取ったのである。おそらく、レアは以前からこれを使っていたかもしれない。それで人々は、『嫉妬は死より強い』と言われたのではないだろうか？†

マラナ・タ

ソン・ヒョンギヨン 牧師 アメリカ・ニュージャージ・ゴスペル・フェローシップ教会

忘れてしまった昔の地境



預言者イザヤは、「あなたがたは、さきの事を思い出してはならない、また、いにしえのことを考えてはならない。見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれをしらないのか。わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる」（イザヤ 43:18～19）と語った。その理由は、主が荒野に道を、砂漠に川を造り出す（イザヤ 43:19）と言われたからだ。だからこの御言葉は、リバイバル（Revival）と更新（Renewal）を追求する集会ポスターによく引用される。

ところでイザヤは、同時に「いにしえよりこのかたの事をおぼえよ」（イザヤ 46:9）とも語っている。この二つの御言葉の「さきの事」と「いにしえの事」は、初め（first）、前に（former）を意味する re…tion という形の単語だ。「さきの事を思い出し

てはならない」（イザヤ 43:18）という御言葉は、今現在を改めなければならないという「改革」（Reformation）を意味し、「いにしえのことを考えてはならない」という御言葉は、最初に戻りなさいという「回復」（Restoration）を指す。リバイバルを呼び求める現代教会は、何をいつから忘れてしまったのかを今こそ顧みるべき時が来ている。現代教会は、まるで記憶喪失のような状態だ。教会が忘れてしまったものとは、新しいものではなく、昔からあって将来にもなお存続されなければならないもの、変えてはならない永遠のものである。それは、教会が建てられた礎たる「真理」という本質に他ならない。変わらないからこそ「真理」なのであるから。

ユダヤ人たちの人生と歴史は、常に、イスラエルの地とエルサレム神殿の回復をめぐるものであった。彼らにとっての回復は、悔い改めであり勝利だった。エルサレムの神殿を奪われた時、彼らの人生は敗北であり、神から捨てられた者であった。彼らの悔い改めとリバイバルは、バビロンでの安定を放棄し、崩れ落ちたエルサレムの神殿を再建することを意味した。「わたしがわが靈を、あなたがたのうちに置いて、あなたがたを生かし、あなたがたをその地に安住させる時、あなたがたは主なるわたし가これを言い、これをおこなったことを悟ると、主は言われる」（エゼキエル 37:14）。万軍の主は、神の約束と祝福を受けるために、昔の祖国の地に戻りなさいと命じた。

しかし、旧約の歴史においてイスラエルが墮落し始めたのも、エルサレムの神殿においてであった。過越の祭に主は、「そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、なわでむちを造り、羊も牛もみな

宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、はとを売る人には『これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな』と言われた」（ヨハネ 2:14～16）。主イエスから見れば、神殿は貞潔であるべきものであった。これは、エレミヤを通して語られたことと同じだ。「主はその祭壇を忌み、その聖所をきらって、もうもろの宮殿の石がきを敵の手に渡された、彼らは祭の日のように、主の宮で声をあげた。」（哀歌 2:7）

本質を回復すべき時代

私がイエスを熱心に信じ始めた青年時代は、リバイバル聖会が流行っていた。リバイバルこそキーワードだった。その時聞いた話の中で、北から南に避難して来たキリスト者たちは、自分たちは天幕に住みながらも、我が家を建てずにまず教会を建てたという証しに感動した。しかし最近は、リバイバル聖会は消え去り、そういう証しはむしろ逆効果となっている。聖殿について強調すると、感動するより警戒し失望してしまうような、そういう時代だ。なぜ私たちに有益になるべき教訓が、肯定的ではなく否定的に受け止められてしまうのだろうか。それは、内的な本質を忘れたまま、外的なものだけを強調するときに起こる一般的な現象に他ならない。

ソロモン王はこのようにいう。「あなたの先祖が立てた古い地境を移してはならない」（箴言 22:28）。地境というヘブル語は境界線、国境という意味だ。ユダヤ人たには堅守すべき古くからの真理がある。真理とは本質自体が変わらないものだ。時



代や状況によって変わるものなら真理ではない。私が経験してきた真理の驚異的な原則は、大きい事であれ小さい事であれ真理は変わらないということだ。国家的なことであっても、平凡なキリスト者の個人生活においても、救いのために適用される真理は同じなのである。

今の教会は、まるで人さえ教会に連れて来れば、主が当然彼らに回心を与えるということを前提としているようだ。だから、リバイバルのため、主に集中するために変わらぬ真理を守ろうとするよりも、人々が来やすいように教会と礼拝を変えようと努力しているように見える。だがそれが原因で、昨日も今日も変わらない重要な救いの真理からそれてしまっている。

まるで、道場に人を集めため、テコンドーの辛い騎馬姿勢を楽な立ち姿勢に変えたのと同じように、教会は人々が違和感なく喜べるようにと救いの基準を変え始めた。その結果、テコンドーは幅広く伝播したが、武道ではなくスポーツに変わってしまった。それはあたかも、安全運転を目的とするのではなく、多くの人に運転免許証を取得させることを目的とする自動車教習所のようなものである。

今私たちは、初代教会が伝えた福音に立ち返らなければならない。少なくとも、信仰を守るために故郷の地を捨てた清教徒(Puritan)たちが伝えた福音を回復することが、この時代を生きるすべての教会と聖徒たちの進むべき道なのである。†

静まって、 わたしこそ神であることを知れ

アメリカ人は、他国文化に対する知識を多く有していると、人々に自慢したがります。その中で、「古代中国の諺」や「古代中国の呪い」を引用したりしますが、それが本当に古代中国の呪いかどうかはわかりません。とにかく、この「古代中国の呪い」に次のような言葉があります。「興味を引き起こす時代に生きて行けるように (May you live in interesting times)」、確に私たちいま面白くない退屈な時代——政府はその役割をきちんと果たし、私たち自身も戦争やテロの脅威から解放され、平穏な暮らしになると自身を持って言える時代——に生きているより、本当に興味を引き起こす時代に生きているといえるでしょう。すべてにおいて面白い形になっていくとき、話は変わってきます。

2016年は、非常に事件が多かった年でした。まず6月に、イギリスが国民投票によってEU脱退を決めました。11月には多くのメディアと専門家の予想を覆し、ドナルド・特朗普氏がアメリカの次期大統領に選出されました。全世界がアメリカの大統領選挙に多くの関心を示していますが、韓国も例外ではありません。

「わたしは確信する。

死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」

(ローマ 8:38～39)

りませんでした。貿易政策に対する彼の発言が、韓国にいる多くの人を不安に陥らせました。韓国では、毎週末に数十万人が大規模のろうそく集会を持ちました。

また何日か前は、日本の海岸を強打した熊本地震によって、大きな津波が発生しました。それでも主に感謝したのは、幸いにも、2011年の東北大震災より小さく、被害も少なかつたことです。また、イスラム過激主義者が勢力を拡張しつつ、中東で起きる大小の戦いに、持続的な関心を集めているのは事実です。

これらの地域で、これから1年、それ以上の時間の間にどんなことが起きるか、気になります。ドナルド・トランプ氏は1月にアメリカの大統領に就任するでしょう。パク・クンヘ大統領は昨年12月9日弾劾案が国会で可決され、すべての職務が停止され韓国は早期大選が行われる予定です。

日本や中国をはじめ、多国との関係は非常に大きな関心の対象となります。このようなあらゆる状況において、私たちは北朝鮮とキム・ジョンウンが行なっている恐怖の政治、そしてその好転性について考えざるを得ません。

この興味を引き起こす時代に、主は言われます。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」と。

詩篇46篇は、信仰と勇気に対する素晴らしい詩です。「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。たといその水は鳴りとどろき、あわだつとも、そのさわぎによって山は震え動くとも、われらは恐れない。」(詩篇46:1～3)

この事実を知る時、私たちが何を恐れるでしょうか？ 何が私たちを圧倒し倒せるでしょうか？

「もろもろの民は騒ぎたち、もろもろの国は揺れ動く、神がその声を出されると地は溶ける。万軍の主はわれらと共におられる、ヤコブの神はわれらの避け所である。」(詩篇46:6～7)

主は私たちの避け所

神は私たちと共におられます。ヤコブの神は、私たちの避け所です。いかなるものも、神の愛から私たちを引き離すことはできません。使徒パウロのローマ人への手紙8章における宣言を見てみましょう。

「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」
(ローマ 8:38～39)

私たちは神の愛にあって安全です。ヤコブの神は、私たちの

神はすべての国々を統治されます。世界のすべての国々の民は神に属しているのです。恐れのゆえに神に泣き叫び、いま起こっている事がらを変えてくださいと要請するより、万軍の主なるいと高き神は世界を統治される偉大なる王のゆえに、私たちはただ神を賛美し、手を叩き、主にあって喜べば良いのです。

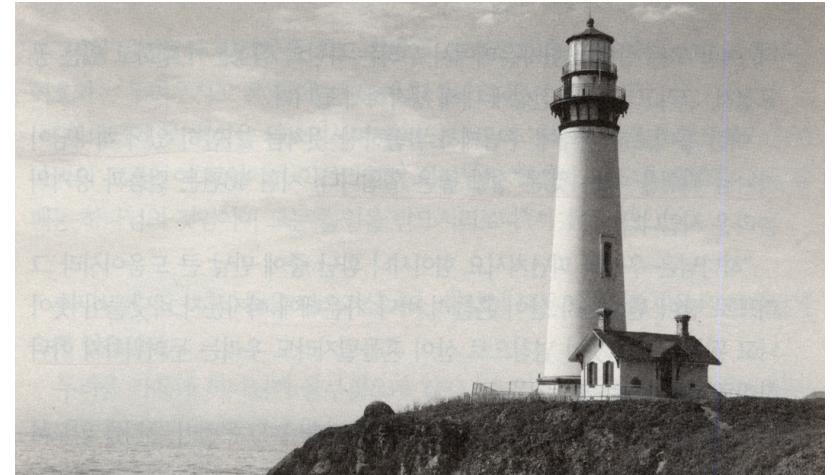
避け所となられます。現在、あるいは未来に予想されるあらゆる混乱や騒動においても、何も心配する必要はないのです。私は本当に詩篇を愛します。詩篇47篇を見てみましょう。

「もろもろの民よ、手をうち、喜びの声をあげ、神にむかって叫べ。いと高き主は恐るべく、全地をしろしめす大いなる王だからである。」(詩篇47:1～2)

「神はもろもろの国民を統べ治められる。神はその聖なるみくらに座せられる。もろもろの民の君たちはつどい来て、アブラハムの神の民となる。」(詩篇47:8～9)

神はすべての国々を統治されます。世界のすべての国々の民は神に属しているのです。恐れのゆえに神に泣き叫び、いま起こっている事がらを変えてくださいと要請するより、万軍の主なるいと高き神は世界を統治される偉大なる王のゆえに、私たちはただ神を賛美し、手を叩き、主にあって喜べば良いのです。

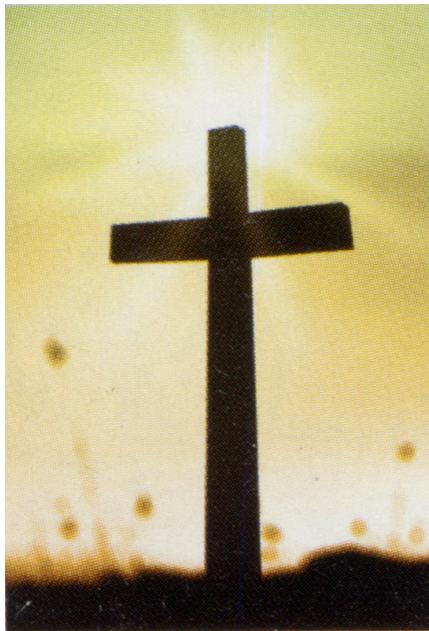
そうです。何か、事が上手く進まないように見えるかもしれません。私たちの経済状況は悪く、指導者たちは腐敗し愚かで、他の国々は脅威の対象に感じ取れるかもしれません。これらのすべての事がらは、実際にそうかもしれません。しかし神を崇め、



主の大いなるいくしみに寄り頼むならば、すべての事に勝利することができます。神をほめたたえましょう！

そして、国のために、すべてのことのために祈りながら一年を始めましょう。私たちはこのすべてのことにおいて、主が驚異的な働きを賜りますよう、御国のためにこれらが用いられますように祈ります。なおも、この地に大リバイバルのみわざが臨みますように、聖靈を注いでくださいと熱心に祈り求めます。韓国も、日本も、アメリカも、すべて必要です。神が私たちを一つの国、連合された教会、主にあって一つにしてくださるよう、切に祈ります。

そうして神が見るに、私たちが十分に準備されたとき、私たちの意志ではなく、神の御旨に従って、神が「行きなさい」と命じられた場所へ福音を携えて行けるように祈ります。北朝鮮と韓国が、王なる神と共に一つとなり、新しい国となるその日を待ち望んでやみません。†



発行：純福音東京教会・出版部

【翻訳】：高峰英姉妹、林俊秀教育生、間杉綾乃執事、朱水晶執事、李珍執事、
山野永理勧士、朴秀珍執事、趙芝賢伝道師、澤田義則執事、金景娥執事、
朴宰完按手執事、金澤由紀子勧士
【日本語校正】：松谷恵理執事、佐野綾執事、間杉綾乃執事、金澤由美姉妹、山口裕功執事、
吉田綾子執事、笠原幸子執事、武石みどり執事、向川誉執事、澤田義則執事
【印刷・製本】：間杉典生按手執事
【再編集】：金澤由紀子勧士
